

莊白一号窖藏

1976年12月15日、法門鎮莊白村南約100mの場所で、農民白新恩等が整地の際に発見した。同日、周原考古隊が発掘、西周建築遺跡が出土した。また、南北1.95m、東西1.10m、深さ1.12mの長方形の窖内から銅器103件が出土、周原博物館に収蔵された。



癩簋甲

1976年、莊白一号窖藏出土。周原博物館蔵。

通高35.7cm、口径22.8cm、腹深11.4cm、重さ11kg。

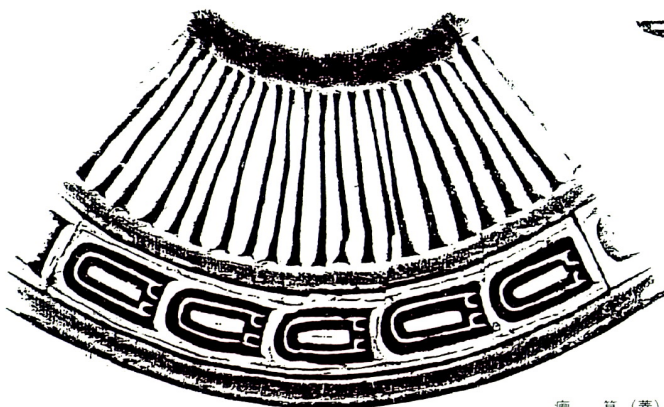
形には特徴がある。腹は鼓のように外に膨らみ、珥(腹部の両側についた耳)は獣首屈舌状で、角はぐるりと丸まって高く器の口から上にとび出している。器口の獣角は高い螺状を呈している。

低い圈足で方座、座の四面各々に6個の小さい方孔がある。蓋と器の頸部に重環紋を施すが、その他の部分はすべて直稜紋で飾っている。

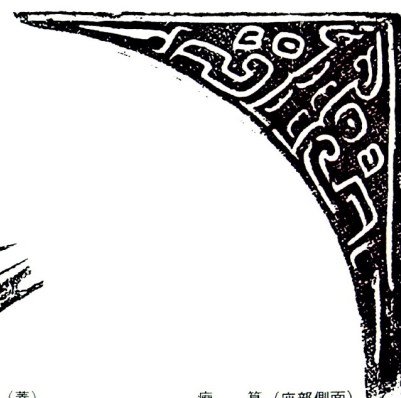
蓋内と器底に同じ銘文6行・44文字が見える。銘文によれば、先祖以来周王室に勤勉にはげみ、癩も周王から夙飾りを下賜され、その榮譽を記念し、多福を祈念したことがわかる。



癩曰顯皇祖考司
威儀用辟先王不
敢弗師用夙夕王
封癩楸錫佩作祖
考簋享其祀大神大神
綏多福癩萬年寶。



癩 簋 (蓋)



癩 簋 (座部側面)